

## 公共事業と教育-学びの場から考える-

No. 6

国土に働きかける努力を先人  
たちが行ってくれたおかげ  
で、私たちは国土から生活の安  
全性や利便性を得ることができます。  
森林、田畠、河川、水道、道路、鉄道など、国土への  
働きかけの歴史とその恩恵の  
とともに、私たちは暮らしていま  
す。

しかし、こうした当たり前の  
事実を、普段、私たちが意識す  
ることはあります。「当たり  
前」であるが故に、口に出して人  
に説明することもありません。  
一方で、公共事業（インフラ形  
成）の必要性とその効果を、わが  
国は歴史教科書ではどのように  
取り扱っているのでしょうか。

現行の中学校の社会科（歴史  
的分野）教科書では、国土への  
働きかけの歴史について、次の  
項目が取り上げられています。  
原始から古代の時代区分で  
は、他の時代区分に比して、ま  
た当該時代区分の全体記述量に  
比して、国土への働きかけに関  
する記述量は多く、植物栽培の  
開始【縄文時代】、灌漑用水路  
の整備と水田稻作の拡大【弥生  
時代】、古墳建設と大和朝廷の  
國力【古墳時代】、渡来人が伝  
えた土木技術（ため池造成など）  
による橋や用水路の整備【以上  
奈良時代】、土地開墾と莊園  
【平安時代】などが採録されて  
います。

中近世では、平清盛による大  
輪田泊整備と日宋貿易【平安時  
代末期】、農業の発達（二毛作  
・牛馬耕・用  
水技術）、交  
通の発達（馬  
借・車借・問  
丸）【以上  
鎌倉・室町時  
代】、戦国大  
名による治水  
・灌漑・交通  
路整備【戦国  
代】、安土桃山時  
代】、河川改  
修・新田開発  
と耕地面積の  
倍増、五街道

の整備、内航航路（西廻り航路  
・東廻り航路・河川水運）の開  
設【以上、江戸時代】などが採  
録されています。

近代以降では、鉄道の開通、  
電信網の整備と国有化、国  
鐵道網の整備【以上、國  
鐵・ターミナル駅の整備】、  
内・外国航路の開設、北海道開  
拓、水力発電所の建設【以上、  
明治時代】、電気・ガス・水道  
の普及、市電・郊外電車・地下  
鉄道新幹線、高速道路整備、宅地  
開発、ニュータウン開発といっ  
た言葉が、教科書本文に散りば  
められている程度で、国土への  
働きかけに関する記述は極めて  
少ないのが現状です。

戦災からの復興（名古屋市や  
広島市にある100以上の道路の整  
備など）、枕崎台風・カスリ  
ン台風・アイオント台風・伊勢湾  
台風といった風水害との闘い、  
数次にわたる全国総合開発計画  
にもとづく国土造り、道路整備  
とモータリゼーションの進展に  
よる経済成長など、教科書には歴史的  
な人物や文化遺産等を主人公  
とする「政治史・人物史」「事  
件・出来事史」を核とする歴史  
教科書では、国土形成の歴史や  
社会資本の役割や効果、社会資  
本整備に携わってきた人々の苦  
労などを、教科書全体の中に散  
見される程度の記述量であるた  
め、これらを体系的に学習する  
ことは難しいと言わざるを得ま  
せん。

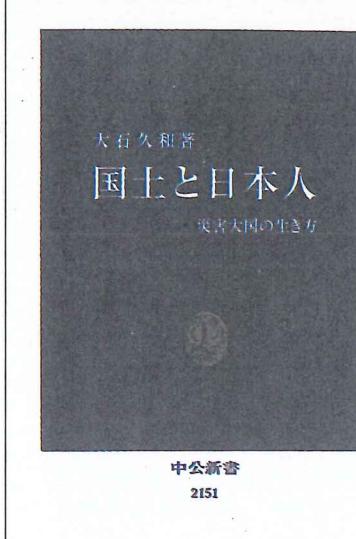
日本人の国土への働きかけの  
歴史、わが国の自然災害の歴史  
は、大石久和著『国土と日本人』  
に体系的にとりまとめられてい  
ますので、今後の歴史教科書へ  
の活用を期待したいと思いま  
せん。

# 公共事業と 教育

学びの場から考える

森田 康夫

●●6



（毎週火曜日掲載）

## 戦後インフラ教育の充実を 歴史教科書が教える公共事業と自然災害

出典：日刊建設工業新聞 10面